

対象

特記仕様書 P13

誤

Aランプ橋		中空床版桁	テール式 混在	2次元	7	1	基礎橋
	P6~P12	BC+PC06 径間連続 中空床版桁	二柱式、 テール式、壁式 混在				
	P12~P23	BC11 径間連続 中空床版桁	二柱式、柱式、 壁式 混在				
東金IC Bランプ橋	A1~P7	BC7 径間連続 中空床版桁	二柱式	2次元	7	1	基礎橋
	P7~P11	鋼4 径間連続 非合成版桁	柱式、テール式 壁式 混在				
	P11~A2	鋼2 径間連続箱桁	壁式、柱式 混在				

2-8 橋梁耐震補強設計 橋脚耐震補強設計

橋梁耐震補強設計 橋脚耐震補強設計とは、下表に示す橋脚について、本特記仕様書「2-2適用すべき技術基準等」に示す耐震基準に対する照査または耐震基準を満足する耐震補強方法等による細部構造の設計などの施工に必要な全ての設計を行うことをいう。ただし、仮設構造物等で特に図面や構造計算を要する場合の費用については別途監督員と受注者の間で協議し定めるものとする。

橋梁耐震補強設計 橋脚耐震補強設計の検測数量は、(基)とする。なお下り線側の橋脚については、上り線側の設計結果を準用するものとする。これに依り難い場合は監督員と受注者との間で協議を行い、その費用を定めるものとする。

2-8-1 設計内容

対象 橋 梁	橋 脚 No	高さ (m)	支承 条件	橋脚 形式	基準長 による 補 正	設計の 複雑化 による 補正	基礎 形式	杭 本数 (本)	類 似 区 分	関連 する 内訳書 の記号
戸田高架橋	P1	19.5	M	柱式 (張出有)	0.9	無	鋼管 杭 (杭 径 1.00 m)	16	C	C1
	P2	21.6	F	柱式 (張出有)	1.0	無		16	B	B
	P3	24.1	F	柱式 (張出有)	1.0	無		32	D	D
	P4	24.5	F	柱式 (張出有)	1.0	無		32	D	D
	P5	24.9	F	柱式 (張出有)	1.0	無		32	A	A
	P6	24.5	M/M	柱式 (張出有)	1.0	無		36	A	A
	P7	24.5	F/M	柱式	1.0	無		36	A	A

Aランプ橋		中空床版桁	ラーメン式 漏在				
	P6~P12	RC+SRC6 径間連続 中空床版桁	二柱式、 ラーメン式、壁式 漏在				
	P12~P23	RC11 径間連続 中空床版桁	二柱式、柱式、 壁式 漏在				
	P23~A2	鋼3 径間連続箱桁	柱式				
東金1C Bランプ橋	A1~P7	RC7 径間連続 中空床版桁	二柱式	2次元	7	1	基準橋
	P7~P11	鋼4 径間連続 非合成版桁	柱式、ラーメン式 壁式 漏在				
	P11~A2	鋼2 径間連続箱桁	壁式、柱式 漏在				

2-8 橋梁耐震補強設計 橋脚耐震補強設計

橋梁耐震補強設計 橋脚耐震補強設計とは、下表に示す橋脚について、本特記仕様書「2-2 適用すべき技術基準等」に示す耐震基準に対する照査または耐震基準を満足する耐震補強方法等による細部構造の設計などの施工に必要な全ての設計を行うことをいう。ただし、仮設構造物等で特に図面や構造計算を要する場合の費用については別途監督員と受注者の間で協議し定めるものとする。

橋梁耐震補強設計 橋脚耐震補強設計の検測数量は、(基)とする。なお下り線側の橋脚については、上り線側の設計結果を準用するものとする。これに依り難い場合は監督員と受注者との間で協議を行い、その費用を定めるものとする。

2-8-1 設計内容

対象 橋梁	橋脚 No	高さ (m)	支承 条件	橋脚 形式	基準長 による 補正	設計の 複雑化 による 補正	基礎 形式	杭 本数 (本)	類 似 区 分	関連 する 内訳書 の記号
戸田高架橋	P1	19.5	M	柱式 (張出有)	0.9	無	鋼管 杭 (杭 径 1.00 m)	16	C	C1
	P2	21.6	F	柱式 (張出有)	1.0	無		16	B	B
	P3	24.1	F	柱式 (張出有)	1.0	無		32	D	D
	P4	24.5	F	柱式 (張出有)	1.0	無		32	D	D
	P5	24.9	F	柱式 (張出有)	1.0	無		32	A	A
	P6	24.5	M/M	柱式 (張出有)	1.0	無		36	A	A